

石 すとーん・さーくる

No.89

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

長岡市柄尾地域の 西中野侯に眠る

越ヶ嶽治太夫とその墓

長岡市 深 滝 純 一

長岡市柄尾地域の西中野侯区に越ヶ嶽治太夫（こしがたけ・じだゆう）という大相撲の怪童の墓がある。越ヶ嶽は本名を源次郎といい、同村の忠八の伴だった。両親とも村人と変わらない体格だったが源次郎は何故か身の丈六尺三寸（約百九十二センチ）もある大男だったという。

その源次郎の存在を知った柄尾町に住む楯石直太という江戸相撲へも顔のきく男の世話を、源次郎は江戸相撲に身を置くことになった。

当時の相撲は地方巡業に際して看板大関というものがあり、巨大な相撲取りが手形や足型を売つて相撲収入の増加をはかつていた。

越ヶ嶽治太夫と名を改めた源次郎の人気はさまざまかったと伝わるが、その人気を妬んだ他の相撲取りの妬みをかい越ヶ嶽は巡業先で毒殺された。

西中野侯区の道路の左側に高さ七十センチほどの墓が立てられていたが、現在は道路の右側の忠

碑の脇に移されている。その碑面に「綱峰秋月信士・天保十一子年（一八四〇）十月十四日、忠八伴源次郎、越ヶ嶽治太夫十九歳、身の丈六尺三寸五分等々と刻まれている。



中越地区見学会記

小千谷市 広井忠男

(主)十日町市松代地区を探訪した。

晩夏の暑い日、十時に十日町市立博物館に集合した。同館では七月十九日から八月二十四日まで「里山の祈りと信仰、松代の石仏展」が開催されていた。

八月九日には本会の渡邊三四一事務局長が解説の講演を行い好評であった。

松代町の石仏展は二階の大ホールで行なわれており、まずこれを念入りに見学する。ホールの中央に風神、双体道祖神、三体馬頭観音等の実物が居並び、周囲にカラーのパネル写真がびつ



三体馬頭観音

その後、一階の常設展示場を希望者が見学する。雪、織物、信濃川、火焰土器等をテーマとした充実感溢れる博物館である。そのために午前中の時間の大半九十分をこれにあてる。午後の巡見の時間がかなりタイトであつたことからもう少し時間を短くしても良かつたと思われる。その後、国道三五一号線を一路松代町に向かう。トンネルを抜けた下り坂左手にそば屋があり、ここで天ぷらそばの昼食をとる。海老の他、野の草花も揚げた風雅に富んだ美味を堪能する。

十二時半過ぎから早いスピードでの巡回会が開始された。二十五名の定員であつたが十七名の申し込み、一名当日欠席であった。

まず犬伏の名社松亭神社（里宮）を訪ね区の集会所で宝物を見学する。越後の聖将・上杉謙信ゆかりの軍配、備前長船の小刀等であった。松代は上杉軍団の関東出陣の重要なコースでもあった。地元区長さんが純朴に説明してください。神社左脇の一角には数体の石仏

が並ぶ。その後の地元案内は山本篤子さん、富沢康子さんがしてください。南口の庚申塚、田沢の十二神社境内の道祖神、地蔵尊（三体）、庚申塔（三体）、二十三夜塔、天王宮、弁財天、陰陽石等々を見学する。古い石仏もさることながら、神社正面鳥居脇の大櫻、大銀杏木は圧觀であった。松代町文化財から十日町市合併後は市の文化財になつてゐるが、県の文化財にもなる巨木である。

この後も奈良立集落などを三時過ぎまでかなりのスピードで巡回した。

当日のプリント資料は十数枚に及ぶものであつたが、何しろ多すぎる上に各ページのナンバーリングが不十分であつた。後でもう一回回りたい石仏もあつたが、どこで何を見たかも後で思い出せない。回る順番に示すとか、せめて巡回番号を明示して欲しかった。上越地区見学会の資料は実に正確無比なものである。他地区も参考にしたい。

十日町博の石仏特別展を見るためであつただろうが、猛暑、酷寒の時期は避けたい。担当の方々の労を多としながら、二十五名の募集が六割

強の十六人参加であったことは最近の例にあまりない。次回に期待したい。

中越石仏見学会に 参加して

長岡市 鶯 山 厚

儲けたような天気。八月二十三日（土）

十日町博物館集合で松代地区の石仏見学会がありました。新入会員の自分としては、まず今春実施の上越地区の見学会に参加し、早く石仏たちに邂逅し、石仏たちの仲間になるつもりでした。今回もそんな積極的な思いで参加しました。

石仏見学の目的は、石仏の由来や建

立の目的とか、石工の話などが中心です。自分は柏崎市の「ふるさと人物館」で『柏崎日記』という江戸後期の下級武士の日記の輪読会に参加しています。

その内容は、石仏たちが多く造られた時代には、人の生死が日常茶飯事の時代です。そんな時代を膨らませることが出来るよう、感動したことを、不明だったこと、学習したことなどを、書こうと思います。

初めに、十日町市博物館企画展に展示の如意輪観音の悩ましさ、美しさ、くびれと石のきめ細かさが織りなす表現力には感動しました。どんな石工の作かと考えました。昔、コカコーラの瓶の形は、女性を模つたと言われましたが、正にそんな気がしました。墓地に行けば女性の墓によくありますが、この作品は優れものです。

室野・松亭神社の風神は、上記博物館にて化粧直しされ鎮座されています。その滑稽で力強い表情は矢張り石工の手腕ですが、室野で出逢った地元の方の話では、もはや風の神が天候を支配し、守ってくれる建立の意味が忘れられ、古老自身も理解できない現実を味わいました。

この近辺は越後騒動以降、幕府領であつて藩領とは異なる背景を感じたことも事実です。

博物館の展示パネルで気になつたこ

とは、犬伏集落北西尾根・地蔵四尊の戒名であります。文化四年銘（一八七一）の遭難者供養塔です。今回、特別参加として同行・道案内いただいた子氏によると「花嫁が会沢村から犬伏

一体の石仏から、折口信夫のいう「間歇遺伝」（アタビズム＝遠い祖先の特質が世代を隔てて子孫に現れる現象）のようなものを感じた一日でした。

ご案内役の桑原和位氏に深く感謝申しあげます。



室野の風神様

事務局だより

◆下越地区見学会のご案内

今回は郷土史家の川上貞雄氏を講師にお招きし、旧 笹神村・華報寺を中心とする中世石仏の見学会を左記のように実施します。ご希望の方は**10月25日（土）まで**にお申し込みください。

期日 11月25日（火） 定員 20名

集合

9時30分（解散は15時予定）

新津駅西口（旧市街地の反対側）

※列車往時 長岡発 8時18分

↓新津着 9時2分

列車復時 新津発 15時24分

長岡着 16時25分

日程

新津駅→ 笹神郷土資料館（中世

石仏見学）→ 羽黒優婆尊見学→

昼食（出湯の釜飯 山茂登）→
華報寺・蓮台野における中世石
仏を見学→新津駅

移動

自家用車に分乗

参加費

3500円（講師謝礼・車ガソ
リン代・資料代・昼食代 110
0円含む）但し、昼食を希望し
ない方はお申し出ください。予
約をしません。

自家用車が3~4台必要です。
車を提供できる方はお申し出く
ださい。

お願い

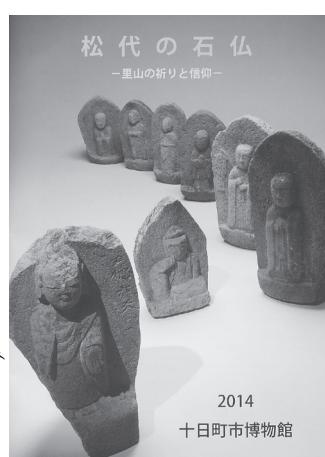
◆ 第18回「石仏フォーラム」のご案内
申し込み
詳細は参加希望者に配布します。
下越地区事務局・岩野笙子
〒959-2034 阿賀野市
緑町22-8 TEL 0250-6
2-0070 (FAXも同じ)
ざいのかわら版
ださい。
詳細は参加希望者に配布します。
下越地区事務局・岩野笙子
〒959-2034 阿賀野市
緑町22-8 TEL 0250-6
2-0070 (FAXも同じ)
滋賀郷太郎（新潟市）→正志賀郷太郎
前会報88号で新入会員氏名に誤りがあ
りました。お詫びして訂正します。

◆新入会員
千代綾子（新発田市）
◆お詫びと訂正
前会報88号で新入会員氏名に誤りがあ
りました。お詫びして訂正します。

◆書籍紹介
『松代の石仏—里山の祈りと信仰—』
(A4判・21頁)十日町市博物館発行
同館「いしぶみ研究グループ」の3年
間の調査成果600基のデータと一部写
真を収録。500円。希望者は同館へ。

◆「石仏フォーラム」発表者を募集!
前記「石仏フォーラム」で第二部に予
定する調査研究報告の発表者を募集しま
す。ご自身の調査報告はじめ、有志見学
会の報告でも結構です。時間は30分から
45分程度で、3~4名を予定しています。
ご希望の方は事務局へ10月20日(月)ま
でにご連絡ください。

◆ 第二部 調査研究報告（3名ほど）
第三部 情報交換
委員会学芸員）
※ 詳細については後日往復はがきでご案
内し、出欠を確認します。



編集後記

遅くなりましたが89号をお届けしま
す。秋の催しにもぜひご参加を。
（中越地区事務局）